

平成27年 10月 1日

## 平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語 125人	社会 125人	数学 125人
	理科 125人	英語 125人	

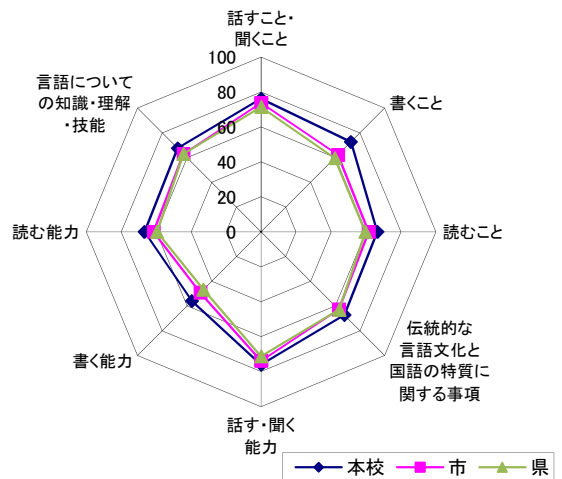
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	76.0	73.8	71.3
	書くこと	72.7	62.2	59.6
	読むこと	66.4	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.3	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	76.0	73.8	71.3
	書く能力	56.1	49.2	46.8
	読む能力	66.7	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	67.6	62.9	62.9



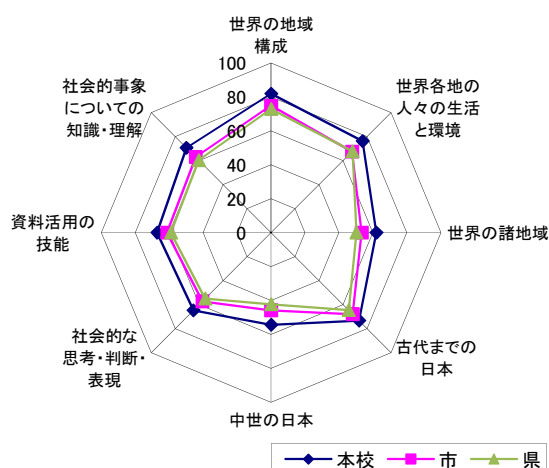
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の正答率に関しては、本校は県よりも6.8ポイント、市よりも4.9ポイント上回っている。特に、司会者の話し合いの進め方の工夫について、よく理解されている。	・さらに授業では、問題意識を持って相手の話を聞き自分の意見と比べたり、聞き手の立場や考えを想定し説得力のある話を組み立てたりする学習を通し、話すこと・聞くことのを身につけさせていきたい。
書くこと	○「書くこと」の正答率に関しては、本校は県よりも13.1ポイント、市よりも10.5ポイント上回っている。詩の表現の仕方について、根拠を明確に自分の意見を書くことがおおよそできていた。	・さらに授業では、詩歌の創作や意見文・レポートの作成など様々な種類の文章表現に取り組ませたい。そのような学習を通して、自分の意見を効果的に伝えたり、より豊かに情景や心情を描いたりする「書くこと」の力の向上につなげたい。
読むこと	○「読むこと」の正答率に関しては、本校は県よりも6.8ポイント、市よりも4.9ポイント上回っている。特に説明文に関しては、文学作品より全般的に高い理解力を示している。	・国語科を苦手とする生徒の多くが、特に文学的文章の読解に難しさを感じている様子が見られる。したがってその授業の中では、登場人物の言動から心情を読み取る学習活動などを論理的に進め、読解の技能を身につけさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率に関しては、本校は県よりも4.2ポイント、市よりも4.9ポイント上回っている。 ●文法の問題では、本校は県より3.4ポイント市より2.3ポイント下回っている。文を正しく単語に分ける設問で、品詞を正しく分類する力が身につけていなかったとみられる。	・2学年の文法の学習では、それぞれの品詞に関する理解を進めることになる。このことにより、それまで不確かであった品詞の区別がつくようになると期待できる。そこで、改めて1学年の学習に立ち返り、理解を深めさせたい。

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	81.9	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	76.3	67.5	67.8
	世界の諸地域	62.0	53.4	50.2
	古代までの日本	73.3	68.0	64.6
	中世の日本	54.4	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	64.7	57.3	55.0
	資料活用 of 技能	67.2	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	70.6	62.9	60.3



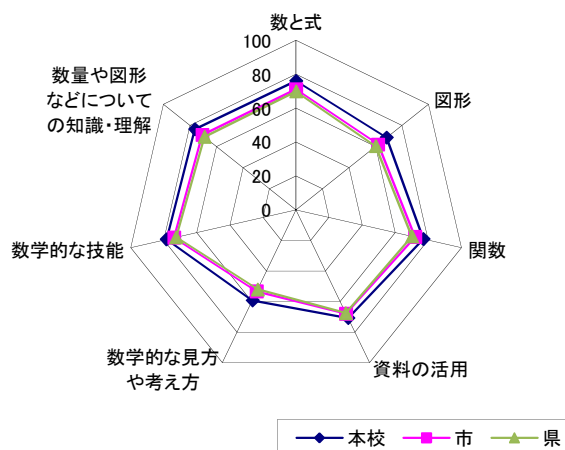
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○領域別正答率では、県の平均を9.1ポイント上回り、よく理解されている。特に、世界の海洋分布に関する地図を読み取る設問は、県の平均を12.1ポイント上回っている。 ○緯度と経度の理解をもとに地図を読み取る設問は、県の平均を9.2ポイント上回っている。	・世界の国々と地域については、世界地図及び地球儀を有機的に関連付けて世界のすがたを捉える必要がある。 ・特に、世界地図の読み取りについては、地球上の位置を緯度と季節、経度と時差で捉えて内容を身に付けられる学習活動を実施したい。
世界各地の人々の生活と環境	○領域別正答率では、県の平均を8.5ポイント上回り、よく理解されている。特に、世界各地の人々の生活と環境についての理解をもとに、雨温図の示す地域を判断する設問は、県の平均を15.7ポイント上回っている。 ○世界各地の人々の生活について判断する設問は、県の平均を9.1ポイント上回っている。	・世界各地の自然環境と生活については、気候地図及び宗教分布図を有機的に関連付けて人々の生活を捉える必要がある。 ・特に、世界各地の人々の生活については、衣食住の特色を地形や気候等の自然環境、宗教等の文化の違いによって異なることを身に付けられる学習活動を実施したい。
世界の諸地域	○領域別正答率では、県の平均を11.8ポイント上回り、よく理解されている。特に、ヨーロッパ州の国々の名称と位置の理解及びオセアニア州の自然環境について判断する設問は、県の平均をそれぞれ16.9ポイント、12.4ポイント上回っている。 ●オーストラリアとアジア州との結びつきについて、複数の資料を読み取って考察し、説明する設問は、県の平均を11.1ポイント上回っているが、正答率は34.5%であった。	・ヨーロッパ州及びオセアニア州における特色ある事象を他の諸地域と有機的に関連付けて地域的特色を捉える必要がある。 ・特に、オーストラリアとアジア州との結びつきについては、アジアの国々からの移民やアジアの国々との輸出入総額の割合が増えていることを資料を読み取ることで身に付けられる学習活動を実施したい。
古代までの日本	○領域別正答率では、県の平均を8.7ポイント上回り、よく理解されている。特に、仏教の発生と伝播についての理解及び聖徳太子について理解する設問は、県の平均をそれぞれ12.3ポイント、16.9ポイント上回っている。 ●京都の平安京の位置についての設問は、県の平均を2.6ポイント下回り、正答率は40.5%であった。	・縄文時代から平安時代までの我が国の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や基礎的な内容の定着を図る必要がある。 ・特に、平安京の位置については、平城京及び長岡京の遷都を含め、歴史地図等を読み取ることで知識及び理解を積み上げられる学習活動を実施したい。
中世の日本	○領域別正答率では、県の平均を12.2ポイント上回り、よく理解されている。特に、承久の乱についての理解をもとに、鎌倉幕府のしくみの変化について考察し、説明する設問は、県の平均を12.8ポイント上回っている。 ●中世の定期市等による経済活動についての設問は、県の平均を1.0ポイント下回り、正答率は33.3%であった。	・鎌倉時代から室町時代までの我が国の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や基礎的な内容の定着を図る必要がある。 ・特に、中世の定期市等による経済活動については、産業の発達により京都及び奈良周辺で座、馬借、問丸等も見られたことを資料等を読み取ることで知識及び理解を積み上げられる学習活動を実施したい。

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	76.0	71.2	69.8
	図形	68.4	61.9	60.2
	関数	77.0	72.1	70.1
	資料の活用	70.9	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	59.3	53.4	52.1
	数学的な技能	78.3	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	76.4	70.8	69.1



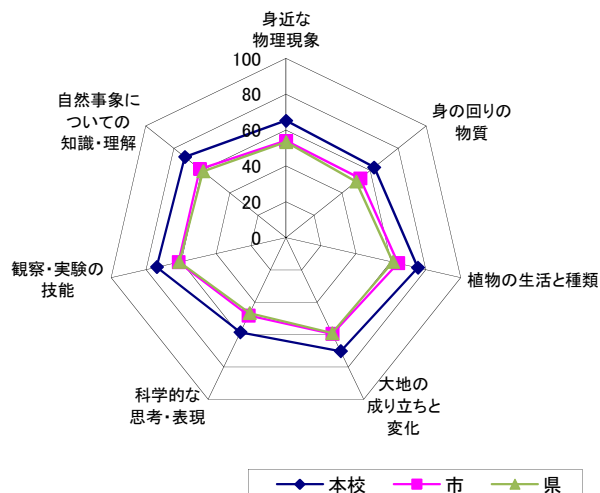
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式では、県の平均より6.2ポイント、市の平均より4.8ポイント上回っている。特に、文章から1次方程式を立式する問題において、県の平均よりも15.6ポイント上回っている。 ●文字式と数の除法の計算、1次方程式での移項でミスが出やすい。	・計算や移項における符号など、間違いやすいところは、丁寧に反復学習をして定着を図る。 ・間違えたところは、なぜ間違えたのかに気づかせて、同じ間違いを繰り返さないように意識した学習に取り組ませる。
図形	○図形では、県の平均より8.2ポイント、市の平均より6.5ポイント上回っている。 ○正四角錐の体積をを求める式を選択する問題において県の平均を12.5ポイント上回っている。	・補助教材を用いて授業を進める上で、実際に手にとって観察したり、シミュレーションを通して感覚を身につける機会を増やす。
関数	○関数では、県の平均より6.9ポイント、市の平均より4.9ポイント上回っている。 ○問題文中の関係と同じ反比例の関係になるものを選択する問題において県の平均を7.3ポイント上回っている。	・ともなって変わる量について、関数領域時に振り返り学習と確認を行うことにより、式・表・グラフを結びつけて考えられるようにする。 ・式・表・グラフから変化のようすがわかるように視覚でとらえる場面を多く設定する。
資料の活用	○資料の活用では、県の平均より3.3ポイント、市の平均より2.9ポイント上回っている。 ●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが苦手である。	・度数分布表やヒストグラムの関係から代表値や交代度数の考え方など資料の傾向を捉え、日常生活と結びつく事象に即した問題を通して筋道を立てて説明できるようにする。

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	65.2	54.0	53.3
	身の回りの物質	62.9	52.9	50.0
	植物の生活と種類	75.4	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	70.4	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	58.6	48.2	46.7
	観察・実験の技能	74.0	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	72.1	61.4	59.2



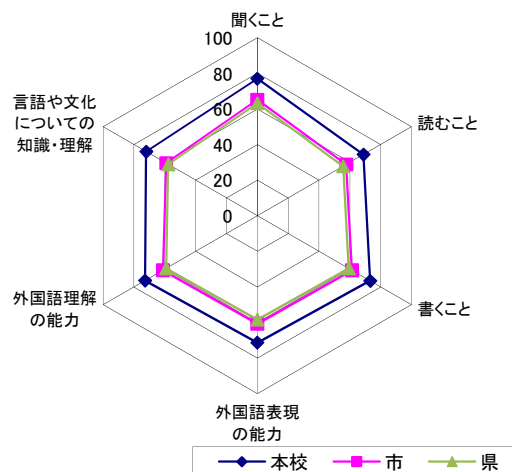
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域全体としては、県平均を11.9ポイント上回っている。設問別では、光の反射の規則性から、鏡に映る範囲を推測する問題では、県平均を22.9ポイント上回っている。 ●音を波形で表した場合の振幅を問う問題では、県の平均は上回っているものの、正答率が低い。	・オシロスコープなど実験器具が一つしかないために演示で行う実験の理解が定着していないと考えられる。今後は、実験後にワークシートやプリントを用いて定着を図っていききたい。
身の回りの物質	○領域全体としては、県平均を12.9ポイント上回っている。設問別では、水溶液の質量パーセント濃度を求める問題では、県平均を18.0ポイント上回っている。 ●水溶液の質量パーセント濃度を2分の1にする方法を推測する問題では、県の平均は上回っているものの、正答率が低い。	・今後は、実験の際に、実験の目的やさまざまな操作について何のために行うのかはっきりさせてから実験させることにより、しっかりとした目的意識をもたせたい。
植物の生活と種類	○領域全体としては、県平均を14.3ポイント上回っている。設問別では、植物の蒸散量を調べる実験で、水面に油をたらず理由を説明する問題では、県平均を23.4ポイント上回っている。 ●顕微鏡を正しい手順で使う問題では、県の平均は上回っているものの、正答率が低い。	・領域全体としては、基礎的な知識はもっていると考えられるので、今後は分類のような総合的に考える分野の指導の充実を図りたい。また、顕微鏡は、観察において多く使用される器具なので、今後は、使用する前には必ず操作手順を確認し、その定着を図っていききたい。
大地の成り立ちと変化	○領域全体としては、県平均を11.3ポイント上回っている。設問別では、深成岩のつくりとでき方を問う問題では、県平均を21.0ポイント上回っている。 ●地層のようすから、噴火の前後で海の深さがどのように変化したかを推測する問題では、県の平均は上回っているものの、正答率が低い。	・地層のでき方など実際に目にすることができない事象について、視覚教材などを用いて理解しやすくするとともに、地層の広がりや立体的にとらえることができるようにしていきたい。

# 宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	77.0	65.2	63.2
	読むこと	68.8	57.6	55.6
	書くこと	73.1	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	71.4	60.7	58.4
	外国語理解の能力	72.8	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	72.2	59.2	57.8



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○聞くことに関して、本校は県より13.8ポイント、市より11.8ポイント上回っている。設問別では、曜日、時刻、数など文の中で重要な情報を正確に聞き取ることができる。</p> <p>●聞き取ることではできても、その文に対して適切な応答をする場面では、少し正答率が下がる。</p>	<p>・聞き取る能力のさらなる向上のために、細かい部分も理解できるような指導を取り入れたい。また、聞き取るだけではなく、自然な会話になるような表現方法を取り入れて、聞くだけでなく表現力も向上させたい。</p>
読むこと	<p>○読むことに関して、本校は県より13.2ポイント、市より11.2ポイント上回っている。まとまりのある文章を読んで、概要をつかむことができる。</p> <p>●英文理解はできるが、グラフや表を読み取ることが苦手としている生徒が目立つ。単語一つ一つの意味は理解していても、熟語になった時に、意味を推測する力をつける必要がある。</p> <p>●一般動詞をつかっていた疑問文、疑問詞を使った疑問文の文法が定着していない。</p>	<p>・読む力をさらに向上させるために、概要だけでなく、細かい内容も把握できるように指導していきたい。指示代名詞が表していることや内容の理解などを授業で取り組んでいく。さらに、単語の意味をそのまま訳にするのではなく、状況や場面に適した日本語で説明できるように指導していく。</p>
書くこと	<p>○書くことに関して、本校は県より13.9ポイント、市より11.7ポイント上回っている。ほとんどの生徒が自己紹介として、自分の名前や好きなことを伝える文を正確に表現できる。自分自身について表現することができる生徒が多い。</p> <p>●一方で、相手に必要なことをたずねるなど、場面や条件に応じた英作文になると、正答率が下がる。</p> <p>●記述式の回答になると、無回答の生徒がいる。</p>	<p>・書く表現をさらに高めるために、表現活動では、自分のことだけでなく、相手に質問することを書かせるなど、コミュニケーション活動の中を書く技能を取り入れたい。また、実際の場面を設定したうえで表現活動を行い、適切な場面に応じた表現が使えるよう指導していきたい。また、表現の場面では、必要な情報を相手に伝えようとする態度を育成したい。</p>

## 宇都宮市立一条中学校 第2学年生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

〈学校や家庭での学習について〉

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」という問いについて本校の肯定割合は、県平均をそれぞれ14.2ポイント、17.8ポイント上回っていて、家庭学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いことがわかる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」、「授業では、クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」という問いについて本校の肯定割合は、県平均をそれぞれ9.1ポイント、9.4ポイント上回っていて、各教科における言語活動の充実を目指した活動が見られている。

○「授業では、授業の目標が示されている」、「先生は、学習のことについてほめてくれる」、「授業でわからないことを先生に聞くことができる」という問いについて本校の肯定割合は、県平均をそれぞれ5.8ポイント、11.5ポイント、10.7ポイント上回っている。授業の目標を明確にした学習活動の充実、生徒の意見や考えを生かした授業の展開が図られてきた。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」という問いについて本校の肯定割合は、県平均を2.4ポイント上回っているが、市平均を0.6ポイント下回っていて、思考力及び表現力がやや不十分である。今後は、各教科において条件に合わせて自分の考えをまとめる活動を充実させたい。

●「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができている」という問いについて本校の肯定割合は、県平均を1.8ポイント下回っている。今後は、各教科等において話し合い活動を通して説明や発表時の傾聴の大切さを学ぶ場を充実したい。

〈毎日の生活について〉

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」、「自分は家族の大切な一員だと思う」という問いに本校の肯定割合は、県平均をそれぞれ6.2ポイント、3.5ポイント上回っていて、家庭における親子の良好関係が図られている。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」という問いに本校の肯定割合は、県平均を3.6ポイント上回っていて、日頃から新聞活用(NIE)の機会による効果が見られている。

●携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合は、県の平均を7.2ポイント上回り、「ふだん(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)」という問いに「3時間以上」の回答割合は、県の平均を1.0ポイント上回っていて、使用取扱いが課題である。今後は、使用取扱いについて家庭でのルール徹底を本校での情報モラル教育及び保護者会等を通してより啓発を図りたい。

●「将来の夢や目標をもっている」という問いに本校の肯定割合は、県の平均を1.7ポイント下回っていて、職業観や勤労観について、学級活動、社会体験学習及び立志記念講演等を通してキャリア教育を充実したい。